

概要

国道17号は、東京と新潟を結ぶ重要な幹線道路であり、物流の大動脈として産業・経済の発展に寄与しているとともに、地域間の交流促進及び沿線市町村との連携強化、並びに地域の生活を支える道路としても重要な役割を担っています。

しかし、南魚沼市浦佐地内の上越新幹線に並行する現道区間では、冬期除雪障害等が問題となっています。浦佐バイパスは、除雪障害の解消、魚野川の洪水時の路面冠水及び春先に発生する濃霧区間を回避するとともに、魚沼地域における医療高度化に向け平成27年6月に開院した第三次救急医療機関である「魚沼基幹病院」へのアクセス向上を目的とした、南魚沼市市野江甲～魚沼市虫野間の延長6.6kmのバイパス事業です。

期待される効果

①冬期の除雪障害の解消

魚沼地域は日本有数の豪雪地帯であり、浦佐バイパス現道区間には、JR上越線と魚野川に挟まれた十分な路肩を確保できない区間があり、道路脇にたまった雪を運び出す運搬排雪作業により、通行障害が生じています。



除雪作業による混雑状況



冬期路肩および車線が確保困難な状況
また除雪障害区間では走行速度が低下

バイパスの整備により冬期間における円滑な交通の確保が期待され、安全性・信頼性の向上が期待されます。



運搬排雪の状況

②冠水・濃霧区間の回避による災害に強い道路ネットワークの形成

魚野川が洪水により氾濫するとJR上越線と並行する国道17号区間は、冠水し通行できなくなります。

また、この区間は春先になると濃霧が発生し、交通障害になっています。

バイパスの整備により冠水・濃霧区間を回避でき、安全な走行の確保が期待されます。



現道区間の霧の発生状況



現道区間の冠水想定区域

※出典：南魚沼市洪水ハザードマップ

事業の経緯

昭和63年度	事業化		
平成3年度	都市計画決定		
平成5年度	用地着手		
平成9年度	工事着手		
平成13年3月27日	(主)塩沢大和線～(一)下折立浦佐停車場線間	開通	延長1.1km
平成24年12月22日	(一)下折立浦佐停車場線～(一)雷土新田浦佐線間	開通	延長1.1km
平成26年11月30日	魚沼市十日町地先	開通	延長1.8km

国道17号 浦佐バイパス



浦佐バイパス起点部より新潟市方面を望む



